

清流

題字：芳野 充

令和6年7月30日
第91号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

意見を受け入れ、行動する

わたしは元来^{がんち}わがままで自己主張がつよく、人の意見やアドバイスを素直に聴くということはしてきませんでした。そのお陰でずいぶんとツラく苦い経験をしました。しかしその経験から、人の意見やアドバイスを受け入れ、素直に行動することの大切さを学んだ気がします。

最近、ある人物をみながら改めて人の意見を受け入れ、素直に行動することの大切さを実感したことがあります。ある人物とはわたしの妻です。ここで身内の話をお伝えするのも大変はばかられるのですが、ご紹介させていただけたらと思います。

妻はもともと料理を得意としていました。しかし、何となく楽しそうではないし、比較的自由な時間もあるようにみえたので、「料理教室にでもかよって、本格的に料理を学んでみてはどうだろうか」と提案しました。逆の立場でわたしがそのような意見を受けたとしたら、「よけいなお世話だ!」と一蹴^{しりぞ}しそうな場面です。

そんな私からの意見を、多少いぶかしそうにしてはいましたが、しばらくすると、「ある料理教室に申し込んできた」と口にしました。料理教室にかよいだした妻は、めきめきと料理のレパートリーをふやしつづ腕^{うで}をあげ、食卓ではわたしも子どもたちも「おかわり」を連呼^{れんこ}するようになりました。

また最近では、あれだけ敬遠^{けいゑん}していたわたしからの登山の声かけにも応^おじるようになりました。いまでは登山道具も買いそろえ、月に一、二回の頻度^{ひんど}で一緒にでかけるようになりました。

妻がわたしからの意見を受け入れ、素直に行動してくれたことで、妻自身が料理に対する奥深さや楽しさを再発見し、また登山をとおして健康であることの大切さや、自然の美しさを共有する時間がもてるようになり、いままで以上に家族団らんの時間がふえた気がします。

「頭から相手を拒絶するのは、『素直さ』とは正反対の『頑固さ』ではないでしょう。『はい。わかりました』と受け入れる柔軟さが、『素直さ』の第一歩です」(『月刊素心』池田繁美著)

正しく必要なことでさえ、ついつい拒絶してしまうわたしですが、妻の行動をお手本とし、頑固さではなく素直さを身につけていこうと、意を新たにもつことができました。

加来 寛

